

◆12月カフェ HOIKUSHI ござ〜れ報告◆

日時 12月17日(土) 19:30~寒河江市ホテルシンフォニー

参加人数：保護者3名 指導員10名

8月に続き
12月も夜の開催!!

今回は感染対策をしっかりした上で、初の集会形式でのござ〜れを開催しました。当日は限られた時間の中で、12月号『生活の場としての施設を考える』を特集テーマに、参加された皆さんから地域の状況、各施設の概要などをお話していただきながら情報交流を行いました。

施設の形態・児童数など様々な違いがあり、その中で課題も話し合われました。顔を合わせた交流はあっという間で話足りない思いがありましたが、子どもたちにとってより良い環境を整えることの大事さをこれからも考えていかなければならないと感じました。またこのような貴重な会ができたと思っています。

参加者からの感想

編集委員を拝命しており、加えて地元寒河江での開催ということで、今回はじめて「HOIKUSHI ござ〜れ」に参加させていただきました。

会では「日本の学童ほいく」12月号の特集を読み、その後は、昨年10月より「日本の学童ほいく」のテーマに沿って各々のクラブの状況などを含めた意見交換を行ったのですが、同じ県内の放課後児童クラブでも、こんなに差があるものかと感じました。特に自治体の補助や施設の運営状況等、切実な悩みに熱がこもりすぎて、予定時間をオーバーするほど(笑)。他施設のリアルな運営状況を聞いた、貴重な時間でした。

寒河江市わんぱくクラブ：後藤健一郎(保護者)

カフェ HOIKUSHI ござ〜れ12月、対面での情報交流会に参加させて頂きました。

コロナ禍での開催でしたが、感染対策をし、地域での取り組みや、活動、施設運営について、学童保育関係者の皆さんの話を御聞きする事が出来ました。

今回開催するにあたり、御理解頂き、会場提供及び、御準備頂きました。先生方ありがとうございました。貴重な時間を、共有させて頂きました事に感謝致します。

カフェ HOIKUSHI ござ〜れを通して、改めて『日本の学童ほいく』誌が私たち学童関係者の専門誌としての位置づけを再確認しました。各地での情報を共有させて頂く事で、子どもたちの安心安全なより良い保育を目指し、今後も機会があれば参加させて頂きたいと思えます。

米沢市児童クラブまどか：羽生尚美(指導員)

★参加者の生の声が届いています！

1月は「特集 食物アレルギーを学ぶ」で交流した。とかみこどもクラブにも現在アレルギーをかかえた子どもが通ってきています。工夫や留意点を一緒に共有したいと思い参加しました。『他人の振り見て我が振り直せ』うちの学童の場合、エピペンを処方されるほどではなく、アレルゲンもピーナツのみなので、対応の大変さは深刻ではありません。しかし、日進月歩の世の中。アレルギーの治療も時の流れとともに変わってきているし、他学童の工夫も取り入れられるものは取り入れたい。失敗談なども聞かせてもらえれば、自分たちも気を付けられます。アレルギーは、一間違えば命にかかわるため慣れは禁物。研修ではアレルギーがいつも取り上げられるわけではないので、今回参加してよかったです。

でも参加者は20数名。もっと多くの人々と共有したかったと思う内容でした。現場の指導員の悩みや、実体験が聞けるのは貴重です。興味のある内容の時だけでもいいからもっと参加してみればいいのに。皆さんが思っているほど堅苦しくないし、回数を重ねるごとにござ〜れは進歩してますよ。

山形市とかみこどもクラブ：柳原のぞみ(指導員)

毎月第3水曜日の午前中に定例開催しているカフェ HOIKUSHI ござ〜れも毎号の特集記事の読み合わせや、情報交流を行っています。

【今後の予定】

★3月15日(水) AM10:00~
3月号『たしかめよう学童保育指導員の仕事と労働条件』
みなさんぜひご参加ください。

バックナンバーの取り寄せ・購読の申し込みは、山形県学童保育連絡協議会へご連絡ください。

TEL:023(674)9782

mail:yamagata-kenren@bz04.plala.or.jp

山形県連協 NEWS

NO.37 2023年2月

https://ykenrengakudou.tobihiro.jp

山形県学童保育連絡協議会

住所:山形市三日町二丁目1-17

アパートメント Flat-C

TEL:023-674-9782 FAX:023-674-9783

メール:yamagata-kenren@bz04.plala.or.jp

子どもたちといきいきとした放課後を
学童保育で働きませんか!!

学童保育は、「親が働いている間、子どもたちが放課後に安全にのびのびと過ごせるように、そして、安心して働きたい」という親の願いから生まれました。働きながら子育てをする家庭にとってなくてはならない施設です。
指導員は、一人ひとりの子どもが安心して生活できるよう子どもたちとともに学童保育の生活をつくるのが仕事であり、そのことで働きながらの子育てを支えています。

Q.A ここが知りたい

- Q.大学の学童保育で社会保険の完備や産休・育休制度等が整備されていて、継続的に専門職として働くことができます。
- Q.学童保育での実務経験及び保育士、教諭、社会福祉士の資格を活かし資格研修受講後、取得できます。その資格は、全国の学童保育就業時に活かすことができます。
- Q.長期的に安心して学童保育に従事できるよう、学ぶための資格取得のためのサポート体制も整っています。

学童保育の見学・職場体験もできます。まずはお気軽にご相談ください。
※ホームページには、現任指導員として働いている方のお話も載せています。

山形県学童保育連絡協議会
HP⇒https://ykenrengakudou.tobihiro.jp
e-mail:yamagata-kenren@bz04.plala.or.jp
TEL:023-674-9782
〒990-0036 山形市三日町二丁目1-17 アパートメントFlat-C

指導員の仕事内容の
魅力発信!

学童保育の仕事について、たくさんの方に知ってほしい!興味をもってほしい!!そんな思いからポスター、チラシを作成しました。県連協として35市町村役所・大学・短大・ハローワーク・社会福祉協議会等へポスターの掲示やチラシ配布を依頼予定です。

又、各連協で必要な情報を(連絡先等)入れ込んでの活用も可能です。

多くの方に学童保育に関心を寄せていただき、人材不足の解消につなげていきましょう。



2023年度活動予定(2月現在)

- ・5月14日(日)2023年度 山形県学童保育連絡協議会 総会
- ・7月2日(日)第48回 全国学童保育指導員学校・東北会場
- ・11月4日(土)5日(日)第58回 全国学童保育研究集会

研修内容の詳細については日本の学童ほいく誌にて、お知らせします。

県連協の活動についてはホームページをご覧ください。

●どんな研修があるの?
●学童ほいくの本って?
などなど、いろんな情報が随時更新されています。
お気軽にアクセスしてみてくださいね。
https://ykenrengakudou.tobihiro.jp



子ども達の安心な生活のために
お父さんお母さんが、安心して働きながら子育てができるよう
県内の学童保育の施策の充実を図っていきましょう!!

令和4年度山形県学童保育連絡協議会実態調査まとまる。
県内の全市町村より回答をいただきました!

山形県学童保育連絡協議会は、山形県内の学童保育の充実を目指し、自治体と個別学童保育に対する調査を毎年5月1日現在で行っています。

自治体への調査は、補助金と県単独事業に関する状況調査を行い、35市町村より100%回答をいただくことができました。

2022年5月1日現在、山形県内には409の支援の単位、16339人の児童が入所しています。調査結果を見ると小学校に入学する1年生の児童数は年々減少していますが、学童保育を利用する児童は毎年増えています。現在は1年生

全体の約6割が学童保育を利用しているという結果でした。低学年の50%以上の利用率は全国でも1位となっています。山形の共働き・核家族の多さによるものと推測されます。

子どもたち一人ひとりが安心して生活し、関係を築いていくための集団での規模が「おおむね40人」とされていますが、1支援の単位46人以上の学童保育が全体の約3割を占めていました。

運営主体の調査結果では、NPO法人が運営している学童保育が増えています。施設に関しては学校施設内の学童保育施設が増えてきていることがわかりました。

学童保育利用児童数の推移

	児童数	学童利用児童数	学童利用人数の割合	1年生の人数	1年生の利用人数の割合
2016	55152	12963	24%		
2017	54043	13562	25%		
2018	53308	14398	27%		
2019	52034	14963	29%		
2020	50855	15531	31%	8045	53%
2021	49164	15611	32%	7689	55%
2022	48241	16339	34%	7732	58%

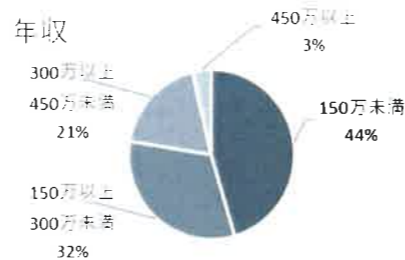
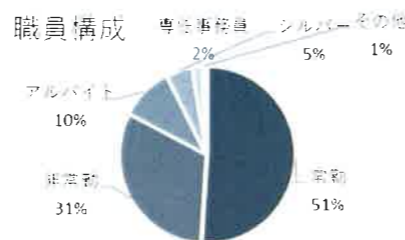


「放課後児童支援員キャリアアップ処遇改善事業」の実施率は年々高くなっており、約8割が実施しています。放課後児童支援員等処遇改善事業は全体の約4割実施となっています。また、R4年度からの新規事業である「放課後児童支援員処遇改善臨時特例事業」は、約7割が実施しています。が、まだまだ各自治体によっての違いが顕著に表れています。R3年度からの事業である「放課後児童クラブ育成支援体制強化事業」は、県内の実施率はまだ少ない状況です。指導員の仕事は日々の保育だけ

ではなく行政の書類作成、会計事務、関係機関とのやり取り等多岐にわたります。この事業を活用して少しでも業務の軽減に繋げていくことが必要と感じました。指導員の人材確保のためにもこれらの事業を活用し人材不足解消へ繋げ、保育内容の充実を図っていくことが重要です。

指導員の現状と課題については60%の回答をいただくことができました。調査結果を見ると常勤指導員は全体の5割、非常勤は3割となっており、1日の労働時間が6時間未満の指導員は5割です。また「処遇改善事業」「キャリアアップ」「処遇改善臨時特例事業」等の事業がある中ですが、年収150万円未満の指導員が全体の4割となっています。多くの学童保育施設で人材不足が大きな課題となっています。子ども達の安心した生活を創る専門職としての継続した関わりがもてるように安定した雇用が確保されることが必要です。

日々変わっていく制度や事業を毎年調査しデータ化比較していくことでより明確に改善・運動につなげていけるように思います。各市町村で今回の調査結果を議員さんとの懇談会や担当課との話し合い等で利用していただければと思います。 ※詳しくは、実態調査をまとめた冊子があります。そちらの資料をご覧ください。



第43回 山形県学童保育研究集会 報告

【テーマ】 こどもの育ちを、保護者・地域とともに考える
【開催日】 2022年11月20日(日) 10:30開会/16:00終了
【開催方法】 Zoomによるオンライン開催
【参加者】 350名(端末数:111)
指導員:303名
保護者:27名(天童10:山形9:鶴岡4:米沢2:東根1:寒河江1)
その他(運営関係・市議等):20名



○全体講演

「今日の子どもの問題を考える」

コロナ禍における子ども達の環境と生存権の保障との兼ね合いや、これから子ども達が生きていくために大人に何が出来るかという部分から未来における課題が見えたと思いました。(保護者)

○第二分科会

今こそ大事にしたい、気持ちを交わし合うコミュニケーション ～子どもに関わる全ての大人が意識したいこと～

子ども達が発信してきたことには、丁寧に対応し、子ども達の話をしっかり聞いて子ども達から心を寄せてもらえる指導員でありたいと思いました。また、指導員同士の関係性や学童クラブの雰囲気が良いと、自分達はもちろん子ども達にとっても安心できる場所になるという先生の言葉が響きました。(指導員)

○第四分科会

学童保育の役割と現状・課題

学童保育の抱える課題と現状を理解できました。今後、さらに学童保育を取り巻く環境を改善していくための、基盤となる知識を得ることができました。(保護者)

○第一分科会

子どもの生活とインターネット・オンラインゲーム・SNS ～ネット世界を生きる子どもの育ちに、大切にしたいこと～

子どものインターネットに対して、メリットよりリスクの不安が大きすぎて、よい感情を持っていませんでした。しかし、ネットの使い方は、日常生活と基本同じで特別なものではないことや正しい使い方を学べばよいことを知りました。子どもと一緒に大人も約束事を決め、時々見直しながらネットと付き合っていきたいと思えます。また、学童保育では、常に対面での会話ができる事が幸せであり、今後も大事にしていきたいと思えます(保護者)

○第三分科会

子どもの育ちに欠かせない「大人がつながる子育て」(交流) ～つながりあって子育てする大切さを話し合おう～

グループ交流があり、指導員目線の声だけでなく保護者目線の声も聞けたことがとても参考になりました。指導員が頑張りすぎている、という声に温かい気持ちになりました。大変な事も多いですが、わかってくださる保護者の方がいらっしゃることはとても心強いです。(指導員)

※参加者アンケートより、一部抜粋して紹介しています。